

ひめだ高広ニュース

日本共産党 和歌山市会議員

No.1245

19.5.21

5月臨時市議会日程(案)

月日(曜)	会	議
5.24(金)	本会議	議案の採決
27(月)	"	市庁舎の耐震補修費の増額、議案採決
28(火)	特別委員会	予算特別委員会(日本共産党は不参加)
29(水)	"	市庁舎の耐震補修費の増額、議案採決
31(金)	本会議	議案の採決

日本共産党

常任委員会分担

- 総務委員会
 - ひめだ 高広
- 厚生委員会
 - 南畑 十才代
 - 坂口 多美子
- 経済文教委員会
 - 森下 十才代
 - 中村 あかり
- 建設企業委員会
 - 中村 あかり

新市民会館予算増額の議案

5月臨時市議会では、議案として議決の選挙が行われます。議案が決まります。議案採決の議案の採決として、それぞれ議案の採決を行います。

市長専決処分報告、新市民会館の建築費増額行為の算の増額議案の説明があります。この議案は、経済文教委員会以外の委員にわたる説明もあつた。この議案は、市長専決処分報告、新市民会館の建築費増額行為の算の増額議案の説明があります。この議案は、経済文教委員会以外の委員にわたる説明もあつた。

フツのん



<1028>

線香花火
カラマツ
カラマツ
アアアアア
アアアアア

カラマツ
カラマツ

おちた

きらいやけど
ちよっと
せつないナー

が変わりました。日本共産党、公明党、維新の会は前期と同じ投票です。私の席は、議案の採決(増額)しました。

今週のフツのん

(191)

カラマツ、カラマツ

孫娘が時々、わが家にやってきて暗くなったら息を吐いて花火をします。

「ジイジイもいっしょにしよう」と誘ってくれるので、花火だけは付き合っているにしています。線香花火に火をつけると私は「カラマツ、カラマツ」と小さい頃に母親から教えてもらって、線香花火が長く燃える呪文を「おぼやくのです。息を吐いて「それは何か」と聞かれるの

日本共産党 演説会
 6月9日(日)
 14時～
 ・JR和歌山駅前
 ホテルグランヴィアで。
 市田忠義副議長 来和。
 和歌山 高広からは
 マイクロバースも出ます。



ひめだ高広

ですが、説明できません。インターネットで検索すると、この誰か、わかりませんが「ススキに唐松とまう」という人がいました。

線香花火は燃え方の段階で、①つぼみ、②ぼた、③松葉、④柳、⑤散り菊と火球の呼び名が変わることです。勢いから「カラマツ、カラマツ」と唱えるのではないかと思っています。

こころの市政学習懇話会

5月15日(水)市教育会館で「こころの市政学習懇話会」が、山形市つくる会が「和歌山市政学習懇話会」を開催しました。林下ナチス日本共産党の議員団が「2019年予算の特筆」と題して、尾花市政の期めの予算の主な点、たものについて説明。林下議員は予算の問題について、①国の補助金に当ての事業を積み立ててい

徳島県議会に部会

5月25日(土)私・ひめだは徳島商業高校教員として部会に出席します。前回は、卒業後に初めて集まった時には、どんなウツサが流れたのか?私か20歳の

不意の心算と国連の指導、④同和対策の聖域化、⑤民主党の弊害などを指摘しました。参加者から質問や意見が出され、林下議員は質問に答えました。

こころの日本共産党

貸上げと雇用の拡大を日本の賃金を時間当たりでみると過去2年間で8%減っており、主要国で唯一のマイナスであることが経済協力開発機構(OECD)の調査でわ

かりました。OECDは時間当たりの賃金動向を各国の政府統計などをもとに調べています。最新データである2018年の時間当たり賃金を1997年と比較すると、韓国は167%、イギリスは93%、アメリカは82%、フランスは59%も増加しています。一方、日本は8%減少

してしました。時間当たりの賃金には、残業代も含まれていません。安倍首相は「5年連続で今世紀最高水準の賃上げを実現」とと宣伝していますが、逆に賃金は下落していたのです。暮らしと経済を立て直すには賃上げと安定した雇用の拡大が必要です。

潮流

19.5.20 昨年度映画にもなった、伊内館牧子さんの小説「終わらぬ人」に、

うは人手不足の解消と社会保障費を抑えることが目的。安倍首相は元気で意欲ある高齢者に経験や知恵を社会で発揮してもらえと飭ります。年金だけでは暮らせない高齢者を労働市場に追いつけるものです。退職しても健康や家計の不安から働かざるを得ない。いまや非正規雇用が4割をこえ、職種を問わず働きすぎが問題となり、賃金も上がらない労働環境は、いつまでも終わらない。現状を正しているかのようです。異例の長さとなった今回の大型連休。働き方や休日の過ごし方に思いをめぐらせた人も多いはず。働くことだけが人生ではなく、た水も自由な時間を有意義に使える社会に。その実現を前に進めた政党が日本にはあります。

「こころからは時間の流れ方が違ってきて面白い。会社員時代と違う価値観で時間を見ればいい」▼60歳で定年を迎えた男性の主人公が、周りがそんな言葉をかけられます。しかし、あまり余る時間に戸惑い、居場所や生きがいを求めてあがきつづける。仕事とすじだった今までの人生とは別の生き方を見つけようとして▼かつては55歳が主流だった定年制が法によって60歳になったのは20年ほど前です。その後、2012年から65歳まで引き上げられていますが、さらに70歳まで働く制度案を政府がとじまよめました▼定年の廃止や延長に加え、再就職のあっせんや起業支援などを企業側に求めますが、よ

ぶん 赤旗 日刊 3497月 日刊 3497月 ぶん 赤旗